

危機管理広報の実務

～ ハイブリッド緊急記者会見の基本実務からテクニックまでを詳解！ ～

プログラム内容 ～最新の事例も取り入れ、模擬による緊急記者会見を実施しながら進みます～

はじめに

- ・リスクマネジメントと危機管理
- ・「緊急時」の定義
- ・初動3原則
- ・最優先事項「トップへの情報伝達の速さ」
- ・メディアごとの個別対応
～リークはタブー～
- ・公式見解(ポジションペーパー)の用意
- ・自社ホームページの更新(公式見解の掲載等)
- ・事例解説

I 緊急時における記者の特性と 具体的対応

- ・緊急時に集まる記者の部署と、それぞれの性質・関心
- ・一般社員が記者に取材を受けた場合
～路上インタビューへの対応～
- ・記者を怒らせるNGワードと適切な言い回し

II 緊急記者会見の準備と進め方

1. どのような場合に緊急記者会見を開くべきか
～会見を開くめやす～
2. 想定質問の作成と情報共有化
 - ・必ず受ける質問
3. 準備の際の注意事項
 - ・適切な時間配分と適切な会場とは
 - ・案内状の内容と送付先、送付時期
 - ・ぶら下がりを防ぐ方法
 - ・配布資料の内容 等

4. ハイブリッド(オンライン)記者会見設営の適切なレイアウト
 - ・ドアの数
 - ・会見者と記者とのテーブルの距離
 - ・対カメラマン用のスペース
 - ・受付の場所
 - ・自社スタッフの配置 等
5. 進行のポイント
 - ・発表者の人選・役割分担の注意事項
 - ・進行(司会者)の注意事項 等
6. 会見で「しなければならないこと」
「してはいけないこと」
7. 表現力を上げる(相手に伝える)テクニック
 - ・印象を良くする姿勢・服装
 - ・好感をもたれるアクション
 - ・目・手・足の動きをめぐる注意
 - ・声の高さとスピード

III 模擬記者会見

- ・シナリオ作成
- ・ステークホルダマップ作成
- ・方針作成
- ・ポジションペーパー作成
- ・想定問答作成
- ・模擬記者会見実施
- ・振り返り

左記プログラムは都合により変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

講師プロフィール

広報コンサルタント／

日本リスクマネージャー&コンサルタント協会 副理事長
有限会社シン 取締役社長

いしかわ けいこ
石川 慶子氏

東京女子大学卒。国会職員として参議院事務局勤務後、1987年より映像制作会社にて、劇場映画やテレビ番組の制作に携わる。1995年より広報サービス会社のマネージャーとして、「危機管理広報、記者会見、ウェブコミュニケーション」等のサービスを提供。2003年有限会社シンを設立して独立。現在は、平時・緊急時の戦略的広報の立案やメディアトレーニング、広報人材育成のためのコンサルティング等を提供。

※出張研修も承っております。表面のお申込先までお問い合わせ下さい。